

## 長田秀樹先生 略歴等及び主要業績一覧

### I 略 歴

#### (学 歴)

- 1959年（昭和34年）1月、佐賀県に生まれる  
1981年（昭和56年）3月、創価大学法学部法律学科卒業  
1983年（昭和58年）3月、創価大学大学院法学研究科博士前期課程卒業  
1987年（昭和62年）3月、創価大学大学院法学研究科博士後期課程単位取得退学

#### (職 歴)

- 1987年（昭和62年）4月、創価大学比較文化研究所助手  
1991年（平成3年）4月、創価大学比較文化研究所講師  
1995年（平成7年）4月、創価大学比較文化研究所助教授  
2001年（平成13年）4月、創価大学法学部助教授  
2007年（平成19年）4月、創価大学法学部准教授

#### (所属学会)

- 日本刑法学会  
日本被害者学会

### II 著作等

#### (共 著)

- 「フィリピンにおける犯罪の動向と最近の犯罪対策」（『現代フィリピン法の諸相』  
創価大学アジア研究所（1999年）収録）

#### (論 文)

- 「誤想防衛について」創価大学大学院紀要第6集（1984年）

「スウェーデン刑法における共犯規定と共犯理論」創価大学比較文化研究第6巻  
(1989年)

「スウェーデンにおける未遂の刑法上の取り扱い」創価大学比較文化研究第7巻  
(1990年)

「予備行為の処罰 — スウェーデン刑法の立場から — 」創価大学創立20周年記念  
論文集収録 (1990年)

「スウェーデン刑法における中止未遂」創価大学比較文化研究第12巻 (1995年)

「事後強盗罪の構造について」創価大学比較文化研究第12巻 (1995年)

「私戦予備陰謀罪の成立要件」創価法学第44巻2号 (2014年)

“Smuggling Firearms Into Japan : A Safty Hazard”

*Transnational Crime Bulletin*, Vol.1, No.1, (Philippines, Philippine  
Center on Transnational Crime, 2000)

(判例研究)

「公園のベンチ上に置き忘れられたポシェットを領得した行為が窃盗罪に当たると  
された事例：窃盗被告事件、最高裁平一六（あ）八八二号、平16・8・25三  
小法廷決定、上告棄却、判例時報1873号167頁」創価法学第34巻3号 (2005年)